ノート：

大学図書館における学生協働の展開
－山口県立大学図書館の実践－

安光裕子※　松田和也※※　清水千裕※※※

Implementation of Staff-Student Collaboration in University Libraries: A Case Study of Yamaguchi Prefectural University Library

YASUMITSU Hiroko※　MATSUDA Kazunari※※　SHIMIZU Chihiro※※※

キーワード：学生協働，図書館サービス，大学図書館

Ⅰ　はじめに

近年，大学図書館を活性化させる取り組みとして，図書館に学生協働を取り入れるところが増加している。「大学図書館学生協働交流シンポジウム」（主催:中国四国地区大学図書館協議会）は，2011年から全国の大学図書館の学生・教職員が協働で行っている様々な活動を報告し交流する目的で開催され，今年度で第10回目を迎えた[1)]。各大学図書館で行われている様々な活動について報告がなされ，回を重ねるたびに参加大学が増加している。

ところで，大学図書館の学生協働の事例集である「学生協働マップ」を作成した八木澤ちひろ氏によると，学生協働とは，「学生の主体的な学習に対する支援」であり，その目的は，すなわち，①大学図書館の運営に利用者の視点を取り入れること，②学生スタッフの学習・キャリア形成支援を行うこと，③学生スタッフを通じて他の学生への学習支援を行うこと，であると言う[2)]。

近隣にある山口大学図書館では，2006年から，図書館サービスの向上や，ピアサポート，学生のキャリア形成支援を目的に掲げて，広報誌『ぴーすけ通信。』を発行したり，汚損本や落書き本の修理をしたりするなどの活動を行っている[3)]。また，梅光学院大学においても，2004年から，図書館サポーターがオープンキャンパスで図書館を案内したり，しおりやブックカバーを作ったり，ビブリオバトルを開催するなどの活動を行っている[4)]。

本学も遅ればせながら，2019年５月から学生協働の活動を本格的に開始した。現時点での本学の学生協働の定義は，図書館を活動の場所として，「学生と図書館職員とが協力し，図書館の利用促進・学生の読書活動を推進する活動」としている。活動名称は，YPU LEC（Yamaguchi Prefectural University Library Excitement Corps.）（「山口県立大学図書館盛り上げ隊」，以下，「YPU LEC」とする。）で，現在１年９か月を経過したところである。

以下に，これまでの活動を報告する。

Ⅱ　山口県立大学図書館における学生協働

１　YPU LECの発足について

2017年度から学生協働の活動の検討を始め，2018年２月から発足に向けた準備を行った。発足の経緯等の詳細について，後述のとおりである。

2019年度のメンバーは，学生14名及び図書館職員，2020年度は学生23名及び図書館職員で活動している。

※図書館長
Director, Yamaguchi Prefectural University Library
※※総務部学術情報部門長
Chief, Academic Information Department, General Affairs Department
※※※図書館司書
Librarian, Yamaguchi Prefectural University Library

III　山口県立大学図書館における学生協働の位置づけ

1　YPU LECと学生ライブラリアン

本学図書館には，YPU LEC（無償）と学生ライブラリアン（有償）による活動の取り組みがある。

YPU LECは，学生と図書館職員とが協力して，利用しやすい図書館づくりや，学生の読書推進を目指した活動を行っている。その活動は，利用者の視点を取り入れた大学図書館の運営に役立つものである。一方，学生ライブラリアンは，平日の図書館開館時に配置され，資料の貸出・返却，資料の書庫出納，利用案内等の業務を行い，司書業務体験の機会ともなっている。

2　メンバー構成

2019年の学生協働の本格活動以降，YPU LECのメンバーの多くは司書・司書教諭課程の学生であり，９割弱のメンバーが学生ライブラリアンと兼ねている。メンバーに，学生ライブラリアンが多いのは，発足当初，学生ライブラリアンを中心に参加の呼びかけを行ったからである。YPU LEC学生数の変遷については表１のとおりである。

3　学生協働の主体

本格的に活動を開始してからの１年９か月を振り返ると，発足当初は，図書館職員の担当者が主体となり行っていたが，２年目に入り、学生が主体となり活動を行うようになっている。このように活動の主体に変化が見られた。今後，活動を進めるにあたり，他大学図書館の学生協働が行っているように，図書館職員以外の職員との協働も視野に入れて活動を行うことが必要となるのではないだろうか。

IV　学生協働の活動内容

1 大学図書館学生協働交流シンポジウム

2017年度は本学図書館学生協働の立ち上げのために，第７回大学図書館学生協働交流シンポジウム（2017年９月５～６日，愛媛大学）に図書館職員２名及び学生２名が参加し、各大学の活動状況を知ることができた。（図１）

本来ならば，2018年度から学生協働を立ち上げる予定であったが，学生との調整がつかず，立ち上げを見送った。翌2018年，第８回大学図書館学生協働交流シンポジウム（2018年９月６日～７日，広島大学）に図書館職員３名（館長含む）及び学生２名が各大学図書館の学生協働の活動状況を知る目的で参加した。（図２）

本学に戻った後，シンポジウムに参加した学生２名，学生ライブラリアン２名と図書館職員とで学生協働の立ち上げに向けて，協議を行った。

また，2019年度から本格的に活動を開始するために学生協働の先進校である山口大学図書館の担当者から学生協働の立ち上げに向けた事例の聞きとりを

（図１）シンポジウム講演

（図２）山口県内大学参加者

（表１）YPU LEC学生数の変遷

	国際文化学科		文化創造学科				社会福祉学科		看護学科	栄養学科	合計
	３年	４年	１年	２年	３年	４年	３年	４年	１～４年	１～４年	
2019 年度	1	0	0	0	9	2	2	0	0	0	14
2020 年度	0	1	1	5	8	6	0	2	0	0	23

（図３）発表風景

（図４）発表ポスター

（図５）当日配布した
クリアファイル

（図６）オンラインでの発表風景

（図７）発表資料

行った。2019年４月にメンバーの募集を行い，14名の学生から参加申し込みがあり，５月から学生協働を本格的に開始することができた。

YPU LEC立ち上げ後，初となる第９回大学図書館学生協働交流シンポジウム（2019年９月５日～６日，島根大学）に図書館職員３名（館長含む）及び学生４名に参加し，学生が活動報告を行った。（図３，４，５）

発足から２年目となる2020年には第10回大学図書館学生協働交流オンラインシンポジウム（2020年９月11日，梅光学院大学（コロナ禍のためオンラインでの開催））に図書館職員２名及び学生７名が参加し，学生が活動報告を行った。（図６，７）

２　全体ミーティング

全体ミーティングは休業期を除き毎月開催し，主に各班が企画の進捗状況を報告した。2019年度は対面で７回開催したが，2020年度はコロナ禍のため2021年１月までに開催した７回のうち，5月はオンライン（zoomを使用）のみ，６月以降は対面とオンラインとを併用して開催した。（図８）

（図８）オンラインを併用したミーティング

表２　YPU LEC班別構成人数

	書架案内	展示	イベント	グッズ	広報	利用案内
2019 年度	4	4	4		5	
2020 年度		6	9	5	7	7

（図９）書架サイン，書架見出し

（図10）おすすめ本展示

（図11）第2回「おすすめ本コンテスト」

３　班別活動

YPU LECはすでに活動を終了した書架案内班を含め６つの班で構成され，2020年度において，メンバーは展示班，イベント班，グッズ班，広報班，利用案内班のうち希望する班に所属し，班単位での活動を行っている。また，メンバーには複数班に所属する者もいる。各班の人数構成は表２のとおりである。

（1）書架案内班

2019年５月，書架案内班は図書の利用促進を目的に，利用者に図書の所在を分かりやすくするための書架サインと書架見出しの作成を企画した。書架見出しにはNDC分類番号，分野，その分野をイメージしたイラストを入れ，印刷後にラミネートで加工し，書架に差し込んだ。2020年１月にすべての書架サインと書架見出しの配置が完了し，書架案内班は活動を終えた。（図９）

（2）展示班

2019年11月，展示班は各学科・学年で多く借りられた図書の傾向を知り興味を持ってもらうこと，レポート作成の参考にしてもらうことを目的に「おすすめ本展示」を企画した。貸出回数（2019年１月～2020年１月）の多い図書の中から，展示班メンバーが５学科の学年別に各１冊合計20冊のおすすめ本を選び，2020年６月におすすめ本，紹介文，各学科をイメージしたイラストのポップアップ看板を展示した。（図10）

展示場所にアンケートを設置したが，コロナ禍のため，当時は大半の授業がオンラインで行われており，図書館の来館者もアンケート回答者も少なかった。アンケートの自由記述に「展示内容が多種多様で面白い」という意見があったことを受けて，次回は紹介する図書の冊数を増やす予定である。

（3）イベント班

イベント班は年１回「おすすめ本コンテスト」を開催している。「おすすめ本コンテスト」とは学生からおすすめの本のタイトルと紹介文を募集し，その中から投票で上位３位までを決定するものである。

2019年11月の第１回はテーマを設けず，本学図書

館の所蔵の有無も問わなかった。16作品の応募があり，用紙での投票は89票であった。上位３名には賞状と副賞として図書カードを贈った。参加賞として同年に作成したYPU LECオリジナルクリアファイル（図５）と「特別貸出カード」（３回に限り，通常よりも長く図書及び雑誌を借りることができるカード）を贈った。

2020年11月の第２回は「たべもの」というテーマを設け，本学図書館の所蔵図書を対象とした。11作品の応募があり，シール投票とオンライン投票の合計は162票であった。（図11）オンライン投票はコロナ禍の対応として新しく導入した。投票用URL（YPUポータルの掲示板に掲載）及びQRコード（投票を呼び掛けるポスターに掲載）を利用すれば，自宅でもどこでも応募作品の閲覧，投票ができるものである。上位３名には賞状と副賞としてグッズ班が作成したYPU LECオリジナルグッズを贈り，参加賞は第１回と同じである。

（４）グッズ班

グッズ班では主にYPU LECイメージキャラクターのしみちゃん（図12）をモチーフにしたオリジナルグッズを作成している。グッズ班単独の企画に加えて，イベント班企画の「おすすめ本コンテスト」の賞品の作成も担当した。

（図12）しみちゃん

（図15）『しみちゃんニュース』第1号

2020年6月には，図書館の利用者用ロッカーのキーアクセサリーの作成を企画した。ロッカーキーの番号札が大きくて使いにくいという意見があったことから，温泉地などにある手首に付けられるキーアクセサリーをヒントに作成した。まずグッズ班メンバーで８種の試作品を作成し，同年７月のYPU LEC全体ミーティングで他の班のメンバーに好評だった６種の試作品を図書館利用者に実際に使用してもらい，投票を行った。投票の結果人気を集めた４種のアクセサリーを必要個数作成し，同年９月にロッカーに設置した。（図13）投票の結果，グッズ班の予想とは違う試作品が人気を集め，利用者に実際に使用してもらうことで，利用者のニーズを知ることができた。

2020年11月には，イベント班主催の第２回「おすすめ本コンテスト」の上位３名に贈る副賞４種（トートバッグ，ルーズリーフノート，卓上カレンダー，しみちゃんのぬいぐるみ）の作成を担当した。１位にトートバッグ，ルーズリーフノート，卓上カレンダー，２位にトートバッグ，ルーズリーフノート，３位にトートバッグ，しみちゃんのぬいぐるみを贈った。（図14）

（図13）完成したキーアクセサリー

（図14）第2回「おすすめ本コンテスト」の副賞

（５）広報班

広報班の活動内容はYPU LEC情報誌『しみちゃんニュース』を発行することである。本学図書館やYPU LECの取り組みに関する情報を発信している。第１号は2020年１月，第２号は2020年７月，第３号は2020年11月に発行し，第４号は2021年1月に発行した。（図15）

（６）利用案内班

利用案内班は2021年４月に開館する新図書館の利用案内の冊子を作成することを目的に活動している。

2021年１月に新図書館を見学し，冊子は現在作成中であり，2021年４月に発行を予定している。

Ⅴ　本学図書館学生協働の問題点

現在のYPU LECには，以下３点の問題があると考える。

１　メンバー構成

前述のとおり，現在のメンバーの大半は２年前の設立当初の学生であり，2020年度末には約４割のメンバーが卒業する。発足時の2019年度は２年生以上を対象として募集を行い，2020年度の募集はコロナ禍の影響もあり，特に１年生への参加呼び掛けがままならず，１年生の参加は１名にとどまった。なお，本学は３学部５学科を有する大学であるが，現在多くのメンバーは、文化創造学科の学生であるため，今後は，すべての学科から参加して図書館を盛り上げてほしい。そのためにはメンバー募集の方法を再検討する必要があると考える。

２　メンバーの意欲

これまでの企画の多くは，全体の４割を占める４年生が中心となり，発案し，実行に移して活動を行ってきた。2020年10月に，４年生から３年生へと引継ぎを行ったが，しかし，ここにきてメンバー各人の学生協働の活動に対する意欲に差が見受けられる。複数の班に所属し活発に活動をしているメンバーがいる一方で，コロナ禍の影響が関係しているのかも知れないが，活動に対するモチベーションの低下からミーティング等に不参加のメンバーもいる。学生のモチベーションを維持できる仕組みを図書館職員が考える必要がある。

３　全体ミーティングのあり方

コロナ禍の影響で，年度当初の活動は思うように進まず，全体ミーティングは，対面及びオンラインの併用で開催することとした。そのため，メンバーが対面で意見を交わすことができなかった。今後はこのような事態を想定した上で，全体ミーティングのあり方等についての検討が必要であると考える。

以上，本学図書館学生協働の問題点を記した。気になる点はあるが，YPU LECが発足してから２年目にも拘らず，イベントの実施やグッズの作成など本学図書館学生協働の活動は，順調に進んでいると考える。

Ⅵ　おわりに

本学図書館における学生協働の活動報告は，以上である。学生協働の活動はまだ日が浅いが，学生と図書館職員とが協働して，図書館の利用促進を図るという目的には近づいているように思う。とはいうものの，無理なく活動が継続していくためには内容を練り上げて活動の条件整備をしておかなければ，立ちどころに行き詰まるかもしれない。また，学生協働は，岡野裕行氏が，「大学図書館という空間や時間の枠組み，それに関わる人や組織の制約を超えるような視点が求められ」，「大学図書館の空間から外へ出ていく活動は，（中略）中長期的な視点から見れば，何らかの形で大学図書館内での活動にも還元されることになる」[5)]と述べているように，図書館内のみで活動するのではなく，いずれは図書館外，大学外との協働も視野に入れる必要があると考える。

【注】

１）テーマ「新しい繋がりで広がろう　学生協働の輪」2020年９月11日　新型コロナウィルス感染拡大防止のためオンラインで開催。23大学，100名参加。
２）八木澤ちひろ「大学図書館における学生協働について：学生協働まっぷの事例から」『カレントアウェアネス』316，2013年，10-14頁。
３）「山口大学図書館学生協働」http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/blog/ (2021.１.12)
４）「梅光学院大学図書館サポーター」http://www.baiko.ac.jp/university/library/supporter（2021.１.12）
５）岡野裕行「大学図書館における学生協働とは何か」『情報メディア研究』第18巻第１号，2020年，36頁。